

施策番号	2204		
施策名	無電柱化等による魅力あふれる道路空間の創出		
概要	美しい京都の町並みを形成するため、景観形成が特に必要な地区で無電柱化を推進するほか、舗装等について道路空間のデザインに配慮した整備を行う。		
担当局・部室	建設局・道路建設部	共管局・部室	
上位政策	22 景観		
施策に関する 主な分野別計画等	京都市歴史的風致維持向上計画，京（みやこ）の道デザイン指針		

### 施策の評価

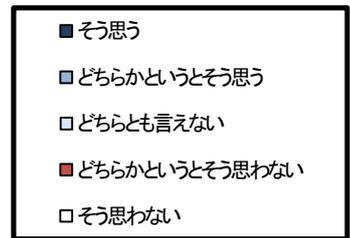
#### 1 客観指標評価

指標名	年度	年度	23年度評価					指標の ウェイト
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	
1 歴史まちづくり法による道路修景整備地区の無電柱化完了延長(km)	-	-	-	-	-	-	-	
2 -	-	-	-	-	-	-	-	
3 -	-	-	-	-	-	-	-	
4 -	-	-	-	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	-	-	-	
<b>客観指標総合評価</b>							-	

#### 2 市民生活実感評価

\*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	23年度回答					有効回答 者数	評価
	そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう思わ ない	そう思わ ない		
1 大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えている。	56 10.1%	164 29.7%	199 36.1%	75 13.6%	58 10.5%	552	c
2 -							-
3 -							-
4 -							-
5 -							-
<b>市民生活実感調査総合評価</b>							<b>C</b>



### 3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

<b>C</b>	<b>施策の目的がそれぞれ達成されている</b>					<b>c</b>	<b>年度</b>	-
	重み付け	<input type="checkbox"/> 客観指標	-	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の実感				
(重み付けの理由) 町並みの美しさは実感されてこそ価値があるので、市民生活実感評価を重視する。						年度	-	
(原因分析) ・客観指標については、平成23年度から本格的に道路修景整備地区全4地区の工事に着手するため、次年度から評価を実施する。これにより総合評価は市民生活実感調査に基づく評価となる。 ・市民の実感については、否定的な回答は2割強と比較的少ない一方で、「どちらとも言えない」という回答が4割近くに上るため、無電柱化の取組に対する認知が必要である。						年度	-	

#### 今後の方向性の検討

#### <この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		23年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		22年度 決算額	23年度 予算額		
1	電線類地中化	1,035,857	1,104,371	-	建設局
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

\*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

#### <今後の方向性>

- ・景観に配慮すべき地域での無電柱化事業には1km当たり約9億円という多額の費用が必要なことから、今後も予算確保に向けて取組を進める。具体的には、国に対して補助率の引上げを継続的に要望していく。
- ・無電柱化に伴って、電柱に共架されている変圧器を地上に設置する必要があるが、地上機器(長さ120cm×幅50cm×高さ90cm)は電柱より大きなスペースを要することから、設置場所を確保するため、電線管理者との合意形成や地域の方々の協力が得られるよう努める。

施策名	2204	無電柱化等による魅力あふれる道路空間の創出										
指標名	歴史まちづくり法による道路修景整備地区の無電柱化完了延長 (km)											
担当課	道路環境整備課	連絡先	222-3570									
<b>1 指標の説明</b>												
地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）に基づき策定した「京都市歴史的風致維持向上計画」に記載のある道路修景整備地区での無電柱化完了延長												
<b>2 指標の意味</b>			<b>3 算出方法・出典等</b>									
歴史的な町並み景観に配慮した美しい公共空間の創出状況を示す指標			算出方法：道路修景整備地区全4地区の無電柱化に係る総事業費と毎年の執行事業費との割合を整備延長に換算して算出（（執行事業費/総事業費）*計画総延長） 出典：事業担当課調べ									
<b>4 数値</b>												
	前回数値 年度	最新数値 年度	推移	目標値								
数値	-	-		(0.458)	根拠 目標を達成するために23年度（次回評価時）達成すべき数値	達成度 -						
	全国順位	中長期目標			備考	平成23年度から本格的に工事着手するため、評価は次年度から行う。						
数値		数値	目標年次	達成度			根拠					
<b>5 評価基準</b>		<b>6 基準説明</b>			<b>7 評価結果</b>							
単年度目標に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満		当該指標については、電線管理者や地元の合意形成・協力が必要不可欠であることから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。			<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>				23	-	-	-
		23										
-	-	-										